

[担当教員]

山崎寿一(教授) 近藤民代(准教授) 山口秀文(助教)  
 島田陽(島田陽建築設計事務所)、山隈直人(神戸山手大学教授)  
 [Teaching Assistant]  
 伊藤美冴(A63) 合田宏明(A63) 中川絵理香(A63)

住宅課題：開かれた家

設計課題のテーマは「開かれた家」とする。住宅は家族だけで住み、生活をするだけの器なのか。従来型の住宅パラダイムにとらわれない新しい住宅を構想して提案してほしい。コミュニティカフェを併設した住宅、他者と住まうシェアハウジング、ワークスペースを備えた住宅など、社会や地域への開き方を各自で想定する。

居住者構成やライフスタイルは設計条件として、各自が具体的に設定するものとする。

■居住者構成とライフスタイル等の基本要件

居住者構成、居住者のライフスタイル、住宅設計の基本条件は各自で設定する。単身や親族以外の同居も可とする。居住者構成とライフスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

■敷地

阪神・淡路大震災後の土地区画整理事業区域内であり、六甲道北公園に面している。敷地面積は約 300 m<sup>2</sup>。

■構造・階数

自由に想定してよい。  
 用途地域は第1種住居地域(建蔽率60%, 容積率:200%)。

■所要室等

新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。  
 将来の居住者構成及びライフスタイルを想定して、創造的な住空間を構成すること。仕事場、アトリエや趣味の空間、二世帯住宅などを計画してもよい。喫茶店や文化サロン等を併設した併用住宅も可。

■提出物・用紙

- (1) 所用図面  
 ①配置図兼1階平面図 1:100  
 ②各階平面図 1:100  
 ③立面図 1:100  
 ④断面図 1:100  
 ⑤模型写真(外観スケッチ、透視図でもよい)  
 ⑥設計主旨・面積表  
 (2) 用紙:A2版ケント紙(仕上げ、彩色等自由)

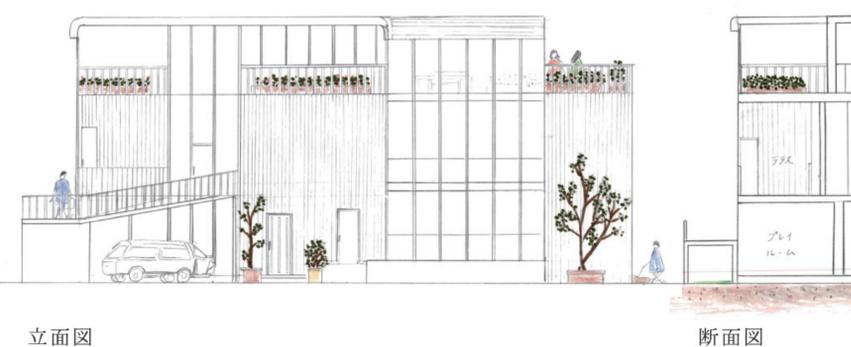
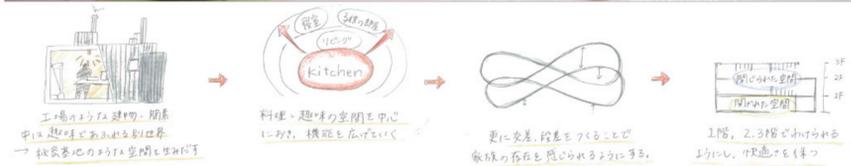
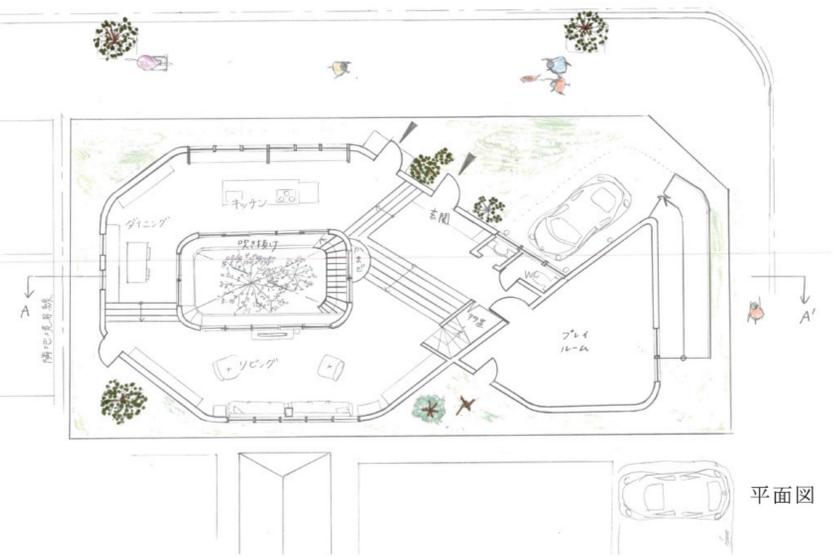
■敷地



HAPPY DINING ~ かまどのある家 ~

大脇春

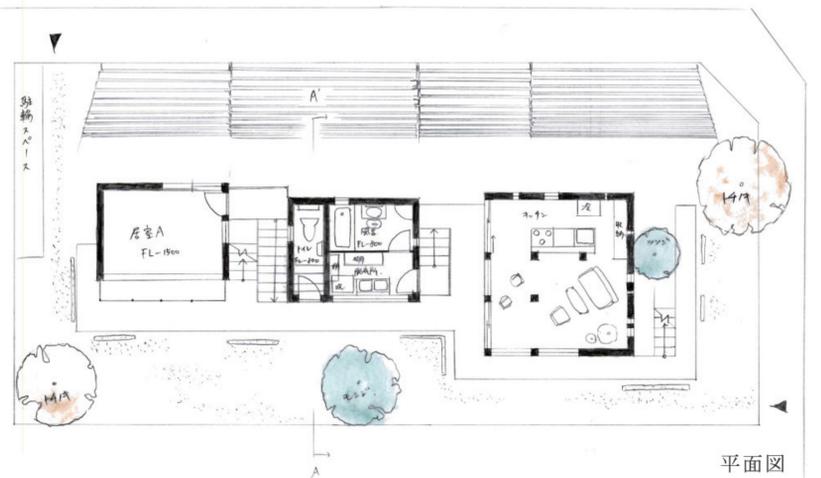
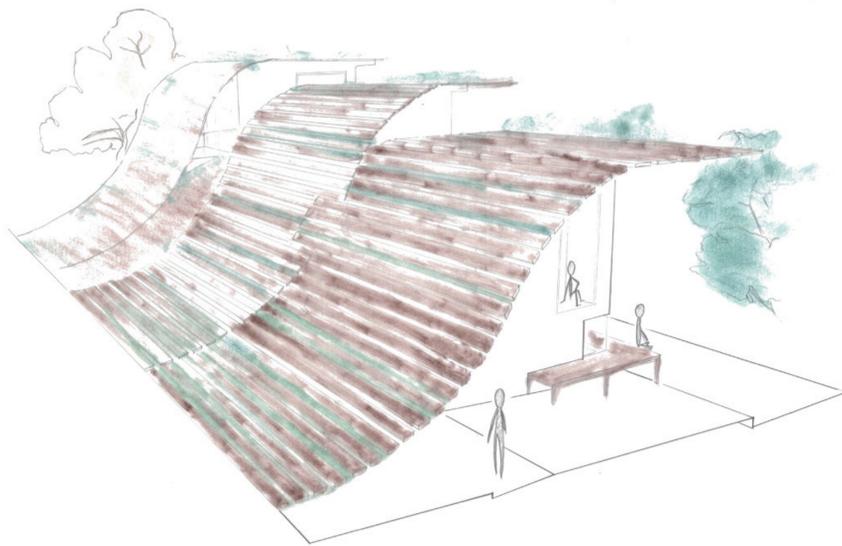
4人家族が住むこの家は「食」を中心に家族、そして地域と繋がっている。各階におかれたキッチン、屋上庭園で様々な人との触れ合いを生み出していく。秘密基地のようなこの家では家族と地域の人両方が幸せになれるよう設計した。



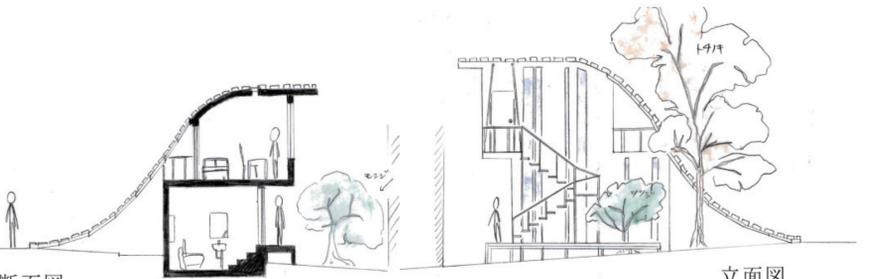
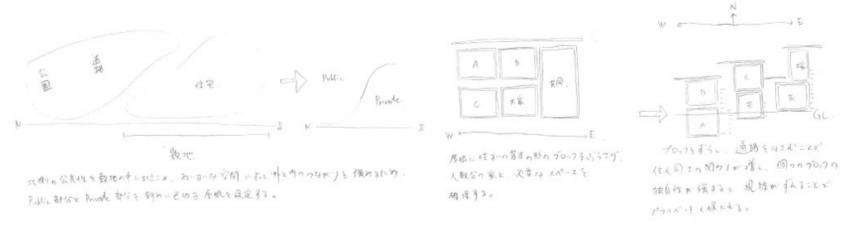
# block/roof

滝瀬祥良

南側の開放的な作りとは対照的に、北側の緩やかに持ち上がる屋根には細い隙間があり、緑化することで年月が経つにつれ植生や色が変わって、そのまま開けておくことで外部を取り込む窓にもなる。3人の単身者と1人の大家が住む、多彩な交流が期待できる住宅を提案する。

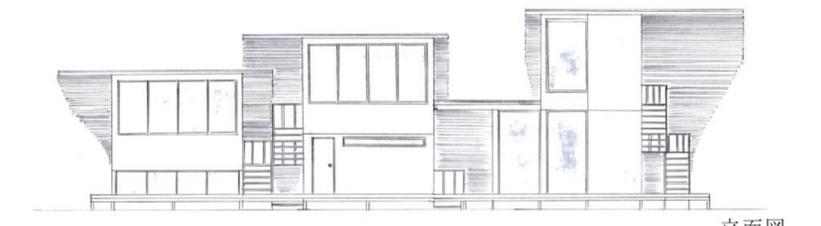
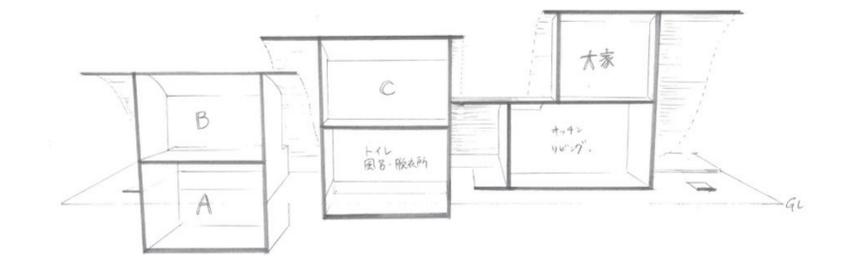


平面図



断面図

立面図



立面図

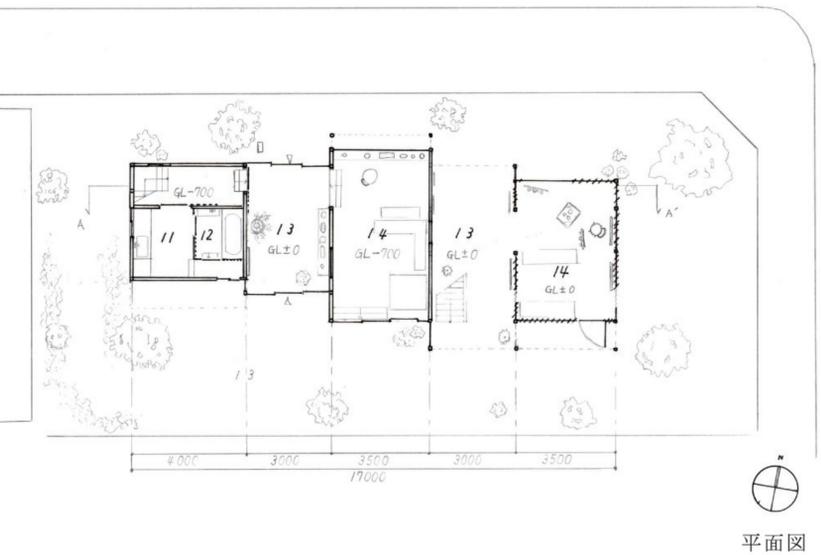
# すき間の距離

吉川晴夫

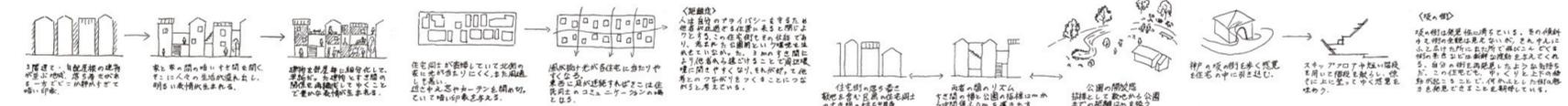
狭く閉ざされ、光や風の入らない住戸間のすき間。このすき間を広げ、周囲の環境や隣人とのゆるやかな距離感を調整する。部屋から部屋へと動く度に都市と家のスケールの間を行き来する。生活を恵まれた環境に開き、同時に都市に豊かな表情を与えられる建築を目指した。



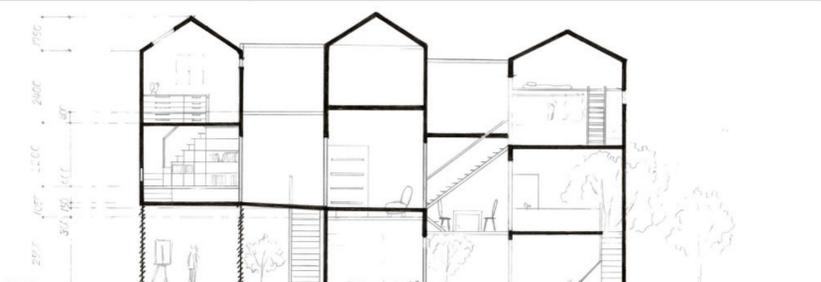
模型写真



平面図



立面図



断面図